

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300114		
法人名	特定非営利活動法人ファインケア		
事業所名	松岡グループホーム		
所在地	静岡県富士市松岡1231-1		
自己評価作成日	平成28年7月11日	評価結果市町村受理日	平成28年8月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2292300114-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年7月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日が楽しく過ごせる事を目標に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

戸外まで出での歓迎を受け玄関に入ると、絵手紙の得意な職員の手ほどきを受けた利用者の作品が何十枚も連なり、目にも鮮やかです。さらにリビングへ1歩踏み入ると、利用者9名、職員7名(全員正社員)という小さなコミュニティが形成され、相互に気安い関係にあることが目でわかります。七夕祭りには背の高い笹を切り出してあたかも自生するかのように入れるほどの天井高を誇るリビングでは、月に1度イベント企画があり、特に時節行事には利用者も昔を想起して、発語が増えています。見た目には平均介護度2.7とは思えず、訪問者に「どうぞ」「まあまあ」と促す様子からは「我が家、として暮らしていることが滲む事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を策定し、実践しています。	法人パンフレットへの掲載及び所内掲示が成され、年1回の社員総会と毎月の会議で「目指していること」「見直すべき点」が話し合われています。管理者は特に「声掛けが大切」と考え、自身の言動で示唆しています。	浸透を深めるためにもはさらに「理念に基づき実践できたかを書面で振り返る仕組み」があることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等の機会にご近所の方と交流をはかっています。	線路沿いの住宅密集地にあるものの田園風景も残り、好天日の散歩では農作業の人とのふれあいもあります。絵手紙の得意な職員の支援を得ての作品は何十枚にもなり、切り絵等地域の福祉展に出品しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	御家族や来所者の方に認知症の理解をして頂ける様、努力しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に地域の民生委員をお招きし、地域行事等の情報を頂いています。	町内会長、民生委員の出席が少ないものの、家族には毎回の案内が功奏して顔ぶれにも変化があります。また地域ケア会議での疑問を投げかけることで参加者の財産管理により良い反映があった例もあります。	((2)、(3)、(6)に重なることですが)事業所通信(新聞)等地域をはじめ病院や介護支援専門員等に配布できるものがあれば広報につながることも期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所の介護保険課、地域包括支援センターから担当者をお招きし、行政からの情報を頂いています。	運営推進会議には夜間にも拘らず、市役所と地域包括支援センター職員が交替で出席くださっています。事業所側も市の委託事業を積極的に利用したり、市が主宰する協議の場にも出向いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、職員に周知徹底を図っています。	法人としては本年「誤薬、転倒防止」に力を入れています。はい、いいえのチェックシートで職員が省みる自己評価にも取り組み、「職員によっては判断が割れる」「明らかな例示でなくとも普段から意識すべきことがある」といった話し合いにも繋がっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待にあたる行為を具体的に示し禁止しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者研修等に参加し、制度の理解を深めると共に職員にも周知しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お客様の立場に立って丁寧な説明を行い、不安、不満を取り除く様努力しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御利用者様、御家族様のご意見は、ホーム会議等で話し合い改善に努めています。	担当制の職員と管理者で多面的にコミュニケーションをとることに尽力しています。「運営推進会議に欠席だった場合は内容を口頭で報告」を常とするのもその一つで、そのため忌憚ない意見が届いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	「連絡ノート」に職員の意見提案を記入出来る様にし、ホーム会議等で相談し運営に反映させています。	利用者9名、職員7名(全員正社員)の構成で、相互に気安い環境にあります。管理者は権限を委譲し責任感を育てることに長けていますが、直属の上司に言いにくいことがあれば本部に相談窓口が用意されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、給与規程を制定し、評価制度を一部導入しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員評価モデルを作成し、研修計画に反映させると共に自己評価の指針としています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士市グループホーム連絡会に加盟し、交流会、共同研修事業への参加等を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時アセスメントを行い、情報収集、対応方法の検討を行い信頼関係を深めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時アセスメントを行う際に御家族様の意向も十分に汲み取り、施設とのパートナーシップの形成に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時アセスメントを行う際に、ご意向を理解し課題を明らかにした上でサービスの提供に取り組んでいます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活支援の上で御本人の意思確認・選択肢の提示を行い、主体性と現存能力を尊重をケアの基礎としています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族とは入居後もパートナーシップを深めるため、面会時等にコミュニケーションを取り、定期的にお知らせを送っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や知人・友人の方が来所しやすい雰囲気作りに努めています。また、墓参、外食等の支援も取り組んでいます。	訪問当日も玄関外まで出て歓迎の意を十分現していただき、家族や知人の訪問も同じく対応していると受けとめました。月1度は行事企画があり、特に節句や七夕祭りには利用者が昔を想起して、発語が増えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団レクリエーション、イベント等の機会を通じて御利用者様同士のコミュニケーションを促し関係を深めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られる場合は介護サマリーを提供しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の動作や発言から、その背景、表出されない思いなどを汲み取る様になっています。	「髪を切ってさっぱりした」だけでなく、その場面で「形がいいね」「短い方が似合うね」と感じたことを伝えることが大事と考えており、一人ひとりの意向や想いに応えるやりとりができていたことを視認しました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時アセスメントを行う際に、御利用者様、御家族様より聴取し利用者理解に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人一人が御利用者様を理解する様に努め、「その人らしい暮らし」を求めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御利用者様、御家族様の要望、主治医の意見等を参考にし、多角的な視点からケアプラン作成に努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタルサイン・排泄状況等を記録し情報の共有化を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	花壇作りや家庭菜園に取り組んでいます。毎月行うイベントでは出来るだけ御利用者様の意見を取り入れる様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩時等、近隣の方とのコミュニケーションを取り、地域との係りを持つ様になっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御利用者様、御家族様の意向を尊重しつつ、連携医を紹介し説明と合意の上で主治医の変更を行っています。	契約時に予め家族の同意を得て、訪問診療が月2回ある協力医に全員が変更しています。医師も事業所のファミリーの一員として、個人の携帯番号やメールアドレスを教えてもらっており、24時間の安心体制です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医の往診が月2回有り、その時に看護師も同行しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	富士市内の病院のソーシャルワーカーとはいつでも連絡が取れる体制になっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を作成中です。	現在対象者がいないものの、近年実績がなく職員が皆未経験という不安もあります。一方、法人内の他事業所で協力医からの誠意ある対応が受けられることは実証済みであり、職員も「私たちが一番この人のことを知っているのだから～」との熱情があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを作成し、ホーム会議等で随時シュミレーションを繰り返しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回の防災訓練を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員がサービス担当者会議に出席し、御利用者様一人一人の状態を把握する様にしています。	「〇〇造船だっただよ」「じゃあ、×△造船の次に大きいとこだったね」との会話にムツとした本人の表情を見逃さず、「〇〇造船が一番だったよね」とフォローする場面にも遭遇し、心配りの対応があることを確認しました。	トイレに置いたパットの籠のネームはイニシャルや記号に替えることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者様の意向の確認、選択肢の提示、合意形成を大切にすると共に、意見や希望を言いやすい雰囲気作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合や日課を優先するのではなく、グループホームは御利用者様の生活の場である事を徹底しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベントや外出時にはおしゃれが出来る様に支援しています。日常生活においても季節に合わせた身だしなみが出来る様に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御利用者様に出来ること、出来そうなことをアセスメントし、役割を担うことによって充実感、達成感を実感出来る様に支援しています。	調理では「一人ひとりの利用者ができること、望むことを手伝ってもらう」ことを旨とし、また献立表には職員が氏名を自ら記入して「今日は私が担当だよ～」とふれまわるとい微笑ましい光景もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事、水分の摂取量を記録し、介護に反映しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、入れ歯のケアを推奨しています。介助が必要な方は必要な介助を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、プライバシーの保護に配慮しながら声掛けやトイレ誘導を行っています。	間隔を職員が計ることで、「本人がやりたいこと、集中できるものに取り掛かり、自然に立ち上がれるよう」生活のリズムのなかに溶け込むことを理想と掲げ、本人が気づかないうちにトイレに向かえる支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を把握し便秘傾向にあれば、食事の工夫、水分の摂取と運動を促す様にしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	御利用者様の入浴の意向を尊重しています。入浴拒否が有れば丁寧に対応し、意欲を引き出す様に工夫しています。	2面から脚を入れることができ、またシャワーが2台備わり、一般家庭よりやや広めの浴室です。1名ずつゆっくり入浴してもらいたいと、薔薇の花湯、ゆず湯といったかわり湯や職員とのおしゃべりで愉しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活のリズムと体調を把握し、必要に応じて就寝支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の病状の把握と処方箋の内容理解に努めています。誤薬の無い様に二重チェックを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に確認したアセスメントに基づき、特技や趣味、職歴等から一人一人の楽しみや喜びを創り出せる様に支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月のイベントへの御家族様の参加を促し、御利用者様の希望を実現出来る様に企画しています。	田んぼや畑を眺め、「野菜の成長具合などを確認して会話をもつ」15分程度の散歩を日課としています。花を眺めるドライブ外出は時折ありますが、予め決まった外出企画は現在ありません。家族との食事で車いすの送迎が難しい場合は事業所で手伝っています。	年1回程度は全員ででかける機会があることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御利用者様にとっての買物は社会参加、自己決定、楽しみの実現の機会であると考えています。能力を勘案して必要な支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はプライバシーを考慮して子機を用意し居室にて通話出来る様にしています。手紙は切手の購入、投函等必要に応じて支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔で有ること、障害物が無いことを基準としています。更に季節感をかもし出す提示物等を作成し生活の彩としています。	リビングは高い天井空間にファン、太い梁にトップライトと、床面積よりパフォーマンスのある居心地感があり、例えば七夕祭りには背の高い笹を切り出してあかかも自生するかのようには置くこともでき、毎月の行事に大いに貢献しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場所のソファの座り位置の工夫、食事時の席の配置の配慮などにより御利用者様同士の係わりが深まる様に工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には出来るだけ使い慣れた生活用品を持ち込んで頂いています。また、必要に応じて職員が御利用者様と共に整理整頓を行っています。	大きなものや特別想いがこもったといった持ち込みはなく、小ぶりのチェストに家族写真や小物を並べています。普段も多くの時間をリビングで皆と一緒に過ごしており、居室で過ごすということはあまりありません。	前居者の使用したコードコーナー、配線カバーのはがれなどが目につきます。「快適な居室」について改めて見直すことを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御利用者様の能力を評価すると共に、所内の危険箇所のチェックを毎月行い安全の確保に努めています。		